

年 12 月 13 日『クリスマス百科』その II

朝日新聞社から出版された本書は、はじめてキリスト教に触れた青年にはたいへん有益でした。著者は、ピルグリム・ファーザースを先祖とするアメリカ人ですが、人種のるつぼと呼ばれるアメリカ社会への理解を十分に発揮しています。

「米国への初期の移住者は大部分英国から来た人たちだった関係で、米国人が一番懐かしむクリスマス行事が英国風のそれであるのも当然といえよう。」英国でのクリスマスを 521 年アーサー王伝説に求めました。そして 9 世紀、アルフレッド大王により七つの小王国が統一され、12 日間がクリスマスの祝賀季節と定められました。

1066 年、ノルマン人が英国を征服すると厳格な封建制度を持ち込み、にぎやかなクリスマスの祝宴を 12 月 25 日から 1 月 6 日まで 12 日間続けました。想像することも困難です。

宗教改革の時代になると、クリスマスが異教徒の習慣から始まったこと、お祝いの度を過ごす人が多いことなどを理由として盛大なお祝いに反対が叫ばれました。

1642 年、オリヴァ・クロムウェルの清教徒革命の時、牧師は、クリスマスは異教徒の祭事である、と説教しました。この感覚は今でも私たちの中に生き延びているようです。

クリスマス・トゥリーは、クリスマスに付き物とされています。なぜでしょうか。

改革者ルターには子供が七人いました。ある降誕前夜、一人家路をたどるルター。冬空にきらめく無数の星や堂々と立派な常緑樹の美しさが深く心に刻み付けられました。家に着いたルターはその光景を言葉にしましたがうまくゆきません。そこで、外へ出て、小さなもみの木を切ってきてその上に火を点けたロウソクを飾って、キリスト降誕前夜の冬の夜空の美しさを伝えました。クリスマスの諸行事は、何よりも御子のご降誕の喜びを分かち合うことが大切です。